

荒井会計通信



発行日 平成 18年 7月 25日(火)
発行者 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 3-1-17
ハイポイントビル 5階
荒井会計事務所
TEL 03-3235-5180
FAX 03-3235-5190

VOL. 6

若い時はより早く、より多くの内容の伴った仕事をしようと夢中になってやった。それが実にもなり、事務所の発展にも繋がった。経験と年齢を重ねてからはスタッフを教育して、ミスのない完璧な仕事をさせ、経営を発展させたいと思ってやって来た。得意先を満足させ、自分にも納得できるものを作り上げるために。持って生まれた性格なのか、自分を追い込んでいく。そして自分の体力の限界とスタッフへの期待の限界に達した時に、自分と人をコントロールする難しさに気が付く。

荒井昇の辛口コラム⑥

【完璧主義からの脱皮】

職業柄多くの経営者の方と日々お会いする。その経営の長所・短所を私なりに捉え、経営者の皆様にヒントになればと思い、言葉を換えてお伝えしている。



経営者の方にも私に似た完璧主義の性格の方がいらっしゃる。自分と同じか、自分以上に優秀な社員を確保し、育て、事業を発展させたい。しかし、それがうまくいかないと、また新たに完璧な人間を追い求めていく、どこまでも。

最近のベストセラー「千円札は拾うな」の著者：安田佳生氏（ワイキューブ代表：中小・ベンチャー企業を対象に経営コンサルタントサービス提供）は“自分の信じている常識や価値観を捨てなければ成長できない”と述べている。“社長が一番の営業マンみたいな形で駆けずり回れば、そこそこの成績は上げられる。しかし、ここは売上を大きく伸ばすチャンスだ、勝負をかけようとチャレンジしたら、失敗してつぶれそうになった。そのとき、自分が今までやっていたのは営業であって、経営ではなかったんだと、やっとわかった。自社の商品やサービスを売って売上を作るのが営業。それに対して経営とは、お金を使って売上を買うものだ。そのための仕組みを考えて人を動かすことなんだ。”

自分が成功した体験やこだわりを捨て、自由になることは大事なことである。完璧な人を育てよう（目先の千円札を拾う）としている間に大きなチャンスを逃しているのではないかとの教訓である。

『前号からの連載シリーズ第6回』

【魅力ある安定した平和国家を築き上げるためには】

前号までに、5年以内にアメリカ発の金融危機が起こり、全世界に飛び火していくことを述べてきた。この経済の大惨事に備えるために、日本も今までアメリカ一辺倒であった政治経済のスタンスを、世界に通用するものに変えていく必要がある。これが第二次世界大戦を引起した戦前の日本国家の二の舞を踏まない、そして日本国家の崩壊を防ぐ唯一の選択肢だ。↗

魅力ある安定した平和国家を築き上げるには、歴史的に見て、今回は非常にいいチャンスだ。その国家構築の原理原則は今回の世界金融危機を乗り越えて行くプロセスに隠されている。このプロセスは日本国民にとって大きな犠牲、苦しみ、そして忍耐を伴うものだ。日本再生プログラムを作り、実行し、そして安定したものにしていくには、おそらく今後10年以上かかる。千差万別な国民がこの長期間の耐乏生活に耐えられるか、そう簡単なことではない。では上記に挙げた大きな犠牲、苦しみ、そして忍耐とはどの程度なのかをまず考察していこう。次号につづく

くらしの税金等

— ゼロ金利政策解除 —

小泉誓次郎

今回は税金の話とはちょっと違いますが、最近新聞等でも大きく取り上げられているゼロ金利政策の解除についてです。



ゼロ金利解除の影響…

まずゼロ金利政策とは何か？

これは日銀（日本銀行）が取った金融政策の一つで、**短期金利**（コール市場で、借りた翌日に返す際にかかる翌日物金利）を**実質ゼロまで下げる政策**を指します。開始当時は深刻な不景気だったため、この政策で金利をゼロ近辺まで下げることにより、お金の流れを活性化させる狙いがありました。（金利が低くなると、お金を借りやすくなりますからね！）

ではこの政策の変更が我々の生活にどのような影響を与えるのでしょうか？ 内閣府が公表した試算によると、1%の金利上昇が1年間続いた場合、**国内の家計全体**では、借金の利子の支払増よりも、預貯金などの利子の受け取りの増加分が上回り、**差引き 6.3兆円の収入増**になるという。（ただし若い世代（20・30代）は預貯金よりも住宅ローン等の借入金の方が多い為、負担増が上回ります…）これに対して**企業の場合**は、預貯金などの金融資産よりも借金の額が多い為、**差引き 3.1兆円の支払増**が見込まれるそうです…

負担増を実感するだけで、6.3兆円の収入増というにはピン！とこない私ですが、皆様はどうでしたか？